

鹿兒島縣の甬與志岳，紫尾山，高知縣の杵の川山國有林にもある。

(13) ミンダナオのアボ山で發見せられた *Diplazium polystichoides* Hosokawa は熱帯に廣く分布してゐる *Didymochlaena truncatula* (Sw.) J.Sm. と同種であるからその異名となる。

(14) 山口縣，北九州，沖縄にあるヒロハクリハランはクリハランに比し葉は卵狀長橢圓形又は長橢圓狀披針形，長さ 20-40 糎，下部が最も廣くて 6-9 糎，基底は急に細くなつて廣楔形，葉質は多少薄く，色もいくらか淡い。葉の形は支那の *Neolepisorus phyllomanes* (Christ) Ching によく似てゐるが，主側脈の間隔に區別點がある。即ち *N. phyllomanes* の側脈はその間隔が 6-8 耗しかないのに，ヒロハクリハランでは 10-15 耗もあつて，この點はクリハランに一致してゐる。それでヒロハクリハランをクリハランの新變種にして *N. ensatus* (Thunb.) Ching var. *platyphyllus* Tagawa とした。

(15) セイタカヤリノホラン *Colysis longifrons* Tagawa はシンヤリノホラン *C. megalolepis* Tagawa の發育のよい大形の個體にすぎぬから異名とする。

(16), (17) ボルネオの *Cyclophorus cornutus* Copel. と馬來半島の *C. micraster* Copel. の學名を夫々 *Pyrrosia cornuta* (Copel.) Tagawa, *P. micraster* (Copel.) Tagawa と改めた。

(18) ビルマや雲南にある *Polypodium niponicum* Mett. var. *Wattii* Bedd. はアヲネカヅラの變種ではなくてタイワンアヲネカヅラ *P. formosanum* Bak. に近い別種であると考えから，學名を *P. Wattii* (Bedd.) Tagawa と改めた。

(19), (20) ニーギネアの *Polypodium pendens* C. Chr. と *P. persimile* C. Chr. とは共にヒメエボシシダ屬 *Calymmodon* Pr. のものであるから，學名を夫々 *C. pendens* (C. Chr.) Tagawa, *C. persimilis* (C. Chr.) Tagawa と改めた。

原 寛*：日本産フウロサウ屬抜き書

Hiroshi HARA: Notes on the Japanese species of *Geranium*.

昭和 21 年に資源科學研究所に於ける有用植物の分類學的研究の一部として本屬のモノグラフを用意したのであるが，現今の印刷事情ではその全文を登載する事は當分の間困難と思はれるので，こゝに文献や記載，分布圖等を省略して觀察の一部だけを抜萃して發表する。尙この研究の一部は昭和 22 年春日本生物地理學會で話し，同會紀事第 1 號，8-11，1 圖 (1948) に載つて居るから参照されたい。

細長い 5-9mm に及ぶ花柱と長さ 2-3mm の花柱分枝を有する點で直ちに識別できるゲンナイフウロ節 (Sect. *Sylvatica* Bubani, emend.) にはゲンナイフウロとチシマフウ

* 東京大學理學部植物學教室

口が入り、莖は直立し枝端に繖房狀に花を簇生し花梗は短く果時も直立し、少くも萼片には腺毛を有し、花は大きく、花瓣は下部縁邊に白鬚毛を密生し花絲下部外側に長白粗毛がある。グンナイフウロ *Geranium eriostemon* Fischer var. *Reinii* Maxim. は莖・葉柄に開出毛多く殊に上部及び花梗には長短の開出腺毛を密生し、葉は兩面共立毛多く下面脈上の毛も開出して居る。本州中部の深山林下或は亞高山帶の草地に生じ、產地により 6 月から開花する。分布の西限は近江伊吹山で北方は岩代磐梯山で中絶し飛んで北海道札幌西方の山地に見られる。可成り變化があり、甲斐郡内地方に産するものを和名グンナイフウロの基準形と考えると、伊吹山産は特に毛が多く莖・葉の立毛は極めて密で葉は基脚が閉ち往々互に重なり合ひ花は淡紅紫色で、若し和名を區別するなら悪い名であるが判り易い様にイブキグンナフウロと呼ぶ事にする。學名の上では逆にグンナイフウロの普通形は var. *Reinii* f. *Onoei* Hara¹⁾ となる。一方毛が少く葉下面は主に脈上だけに毛を有する形が磐梯山、南アルプス、木曾駒ヶ岳等に見られ、花色濃く紫堇色を呈するものはタカネグンナイフウロと呼ばれ、毛の少ないものに多いが毛の多い形にもある。又白花を開くシロバナグンナイフウロも甲信地方に稀に見られる。札幌地方のものは葉裂片稍深く裂け缺刻著しく先端尖り、上面の毛は短く下面は主脈上にだけ開出毛があり、花色濃くこれをイブキグンナイフウロと比べると可成り異つて居るので一極端形としてエゾグンナイフウロ (新稱) f. *yezoense* Hara²⁾ と名付ける。基本種であるタイリクグンナイフウロ (コグンナイフウロ) *G. eriostemon* Fischer ex DC. はバイカル以東、アムール、ウスリー、蒙古、支那北中部、朝鮮北部及び濟州島に分布し、葉裂片は短潤で缺刻淺く鋸齒も圓味があるのが異點で、花は稍小さく色の濃いものが多い。北朝鮮産は變化に富み、葉はタイリクグンナイフウロ形で花の大きいものにハナフウロ、葉下面に白絨毛を密生する形にウラジロフウロの名が與えられて居る。又葉がグンナイフウロ形に深く裂け裂片尖り、莖・葉柄・葉下面の毛は極めて少く一寸無毛に見え、花梗・萼の腺毛も散生する形があり、これをウスゲグンナイフウロ (新稱) var. *glabrescens* Nakai³⁾ と云ふ。

G. eriostemon β. *orientale* Maxim. (1880) は私が標本を検した結果少くも 3 形の混合である。原著に引用された標本中日本産のものはグンナイフウロであるが、アムール産で Maxim. が初め *G. erianthum* var. *elatum* (1859) と名付けたものは矢張りチシマフウロの一變種とすべきもので、全體壯大で全く腺毛を缺き花梗は逆行白毛を密布し萼も亦殆ど白伏毛のみを有する。又沿海州 Li-Fudin 河畔 (Maxim, 1860) 産もチシマフウロの一形で葉柄は逆伏白毛を密布し、葉下面は脈上のみに毛があり、花梗には開出腺毛を密生する形で、邦産チシマフウロ中にもこれと全く一致する形がある。

チシマフウロ *G. erianthum* DC. も極めて近縁の種であつて、毛の性質以外は殆ど一致し、同一起源より生じグンナイフウロより北方に分化發達した形と考へられ種として

區別すべきかも稍疑問である。併し一般には莖の毛少く葉柄と共に時に上部に逆行白伏毛を有するが立毛及び腺毛を缺き、葉は 3/4-6/7 迄深く裂け缺刻も深く両面伏毛を有し下面脈上の毛も開出せず、花梗は更に短かく花時概ね 4-7 mm 下向白毛を密生し時に開出長腺毛を交へ、萼片は白細毛及び開出腺毛を密生する。シベリヤ東北部、沿海州、樺太、カムチャツカ、千島、アリニューシヤン、アラスカ、ブリテイシユ コロンビア北部に産し、南は北海道、本州北部(陸奥深浦、入甲田山、陸中早池峰山)に達する。北地では海岸近くの草原、溪側、林中に普通に生じ、又亜高山帯の草地にも産する。仲々變化に富んで居て殊に開出腺毛の多少は産地により又個體によつて著しい差異がある。概觀や葉の形ではグンナイフウロの缺刻の深い形と全く區別できないものがある。又花梗は勿論莖頂に迄もグンナイフウロの様に開出長腺毛を密生する形が處々にある事は、Hultén も指適した通りで *G. eriostemon* β. *orientale* Maxim. の一部や *G. orientale* Freyn もかゝる形である。花は美しい紅紫色を呈する形が多いが、花色の淡いもの(トカチフウロ、中井 1930)、白色のもの(シロバナノチシマフウロ、武田 1910)、又花瓣に 2-3 缺刻のある個體も大雪山に稀にある。最も著しい形は var. *elatum* Maxim. で上述の如く萼片迄も白伏毛のみを有し、アムール、沿海州地方に産する。これに近い形は我が國にも産し、石狩層雲峡北方の崖で採集したものは全體毛極めて少く、葉下面は脈上のみ伏毛を疎生し、花梗は細長で 12-25 mm で逆白短毛を疎生し、萼片には白伏毛と極く少數の開出腺毛を散生する。これより少し毛多く花梗の短い形は千島にもある。早池峰山にも萼に殆ど白伏毛のみを密布するものと開出腺毛を密生するものとなるが、葉は丸く下面脈上のみに毛を有する。

我國の美しい花を開く種類の大部分はエゾフウロ節 (Sect. *Palustria* Knuth) に入り花莖は 2 花を着け花径 2-4 cm、萼片は長さ 6-10 mm 通常 5-7 脈を有し、花柱は長さ 2 mm 内外で 5 鈍稜を有し分枝は長さ 3-6 mm ある。タチフウロ *G. japonicum* Fr. et Sav. では花瓣の基部を取巻いて環狀に顯著な白鬚毛が密生し、瓣は通常淡紅色で濃紅紫脈があり、托葉は小形で葉質、莖上部では往々合生し、葉の鋸齒は鈍頭又は短銳頭で微凸端、質は稍厚い。本州(羽前磐城以南)殊に中部に多く、九州(豊後肥後の山地)、朝鮮、滿洲南東部、ウスリー、アムールに分布し山野の陽地草原に多い。北海道南部、四國北部にも産すると云うが未だ標本を見て居ない。葉缺刻の深淺、葉・花梗・萼に於ける毛の多少、花色の濃淡に變化が見られる。葉下面は脈上にのみ粗毛を有する形が多いが又一面に毛の生えた形もあり、稀に純白花を開く形もある。*G. japonicum* Fr. et Sav. がタチフウロである事は原標本を検された中井博士によつて再確認されたが記載とは一致しない。原記載には莖・花梗・萼片に立短腺毛を有する事が再三記され検索表でも特徴の一に用ひられて居るが、タチフウロには未だ腺毛を有する形は知られて居ない。花梗には長短の開出又は斜下した白粗毛を密生し、莖・葉柄にも斜下粗毛が多いのが普通であるが、時に花梗の粗毛は凡て逆向伏臥する一形があつて、莖・葉柄等の毛も亦同様であ

る。この形は本州中部、九州に點在して居てフシゲ（伏毛）タチフウロ（新稱）var. *adpressipilosum* Hara⁴）と呼ぶ。朝鮮、滿洲ではこの形の方が普通であり、又葉片先端が本州産より鋭く尖る形が見られ、*G. koraiense* Nakai (1911) もかゝる一形と思はれる。

中國山脈の石灰岩臺地を主産地とするビツチュウフウロ *G. Yoshinoi* Makino ex Nakai はタチフウロに最も近縁の種類と考へる。

エゾフウロ *G. yesoense* Fr. et Sav. では托葉は膜質褐色で離生時に合生し、葉の鋸齒は尖り下面脈上に花梗・萼片と共に粗毛が多く毛は往々長く開出し、花瓣は紫紅色で下部脈上及び縁邊に白毛があり、萼分室にも白粗毛を有し、根は屢々紡錘狀に肥厚する。千島（新知島以南）、北海道及び本州陸奥の海岸に近い草原に生じ、又本州中部の高山草地に産し、花は大きく美しい。葉の裂け方、終裂片の廣狹、毛の多少、萼片の毛の長さ等變化の著しい種で、極端形を比べると隨分違ふが中間形も多く、又同一産地でも個體の變異が大きい。葉は細裂して萼片には殆ど伏臥毛のみを有する形が北見根室釧路膽振等處々に産し、又萼片に開出粗毛が多いが葉の缺刻の淺い形もありバマフウロへの移行を示して居て *G. yesoense* の基準はかゝる形かと思はれる。又膽振苫小牧附近産は萼片に短い伏毛のみを有し日光附近産のハクサンフウロに似て居る。江州伊吹山に産するものは本州に普通のハクサンフウロより毛が多く、萼片には開出した長い白粗毛があり反つてエゾフウロと一致する。これを南千島や北海道産と比較してその變異の範圍中に入り、特に區別すべき點を見出せなかつた。花瓣に鈍齒があるイブキフウロは同地でも尋常形ではなく、又白花品もあり、葉の細裂する形と粗な形とある。信州白馬山や淺間山等にも萼に長粗毛多くエゾフウロと一致する形が見られる。

ハマフウロ var. *pseudo-palustre* Nakai は北海道、南千島（國後）及び本州（陸奥、羽後）の海岸草地に産する。この基準形を葉が細裂し萼片に長開出粗毛を密生するエゾフウロの一形と比べると、葉の缺刻淺く鋸齒が短潤で萼に開出毛の少い點で區別できるが中間形があつて變種以上には認められない。羽後男鹿半島西海岸に産するものは葉形等ハマフウロによく一致するが萼片には伏毛のみを有しハクサンフウロとの中間形を示しヲガフウロ f. *intermedium* Hara⁵）と名付ける。

ハクサンフウロ（アカマフウロ）var. *nipponicum* Nakai は本州北中部の主として亞高山帯草原に廣く分布し、莖・葉の毛少く葉下面脈上には略開出した長粗毛を疎生し花梗は逆伏粗毛を有し、萼片は伏臥時に開出した粗毛を散生し内片には細伏毛を有する。

イヨフウロ（シコクフウロ）*G. shikokianum* Matsumura はエゾフウロに近縁の種でその西南方に分布し、葉の缺刻淺く、托葉は通常合生し更に薄く大形、花瓣基部縁邊にのみ白毛著しく花絲基脚に白粗毛が多い。中國、四國の山地から南は九州（豊後由布岳・九重山、肥後阿蘇山の高原）、東は駿河愛鷹山に亘り點在分布して居る。九重山麓のものは毛の多少が特に變化する。濟州島漢拏山の高地にあるものもこの一形であり、滿鮮産

のケカウライフウロとも近縁関係がある。大和大峰山脈に生じ葉の裂け込・缺刻が特に深いヤマトフウロ var. *yamatense* Hara や、甲斐三ツ峠に産し葉裂片尖り毛が稍少いカヒフウロ var. *kai-montanum* Honda et Hara は、共にイヨフウロの地方的變異である。更に屋久島宮ノ浦岳の山地に生じ、全體瘠小で葉も小さく長さ 1-2 cm 深く 5 裂し、裂片は略菱形、齒は披針狀卵形乃至卵形鋭又は鋭尖頭、花は徑 2 cm 内外となつたヤクシマフウロ var. *Yoshiianum* Hara⁶⁾ も亦この變種と考へる。

アサマフウロ *G. sobotiferum* Komarov は葉が深く細裂し鋸齒は概ね披針形鋭頭となり質稍硬く、托葉は合生し稍葉質、花は濃い紫紅色で頗る美しく徑 2.5-4 cm、花瓣は下部脈上に長軟毛を散生し、基部は特に縁邊に白鬚毛を密生し、果梗は直立し、全體毛少く毛は凡て伏臥し葉上面・花梗・萼の毛は短かい。信州淺間山麓、磐城白河町、駿河富士山西麓の濕原に産し、飛んで北朝鮮及び滿洲に分布して居る。本州中部産と滿鮮産とを充分比較したが同一と考へる。白河や富士山産は葉の缺刻粗で幅廣く、これを滿鮮産の葉が細裂し終片が線狀披針形をした形と比べると異つて見えるが、淺間山には細裂するものから色々の中間形がある。*G. sobotiferum* は、葉を着けた長い匍枝を出す點が特徴とされ又圖解されて居るが、この様なものは Komarov 自身の採品にも又他の標本にも見當らない。果梗は輕井澤で多くの個體に就て觀察した結果、終り迄概ね直立して居た。**ツクシフウロ** var. *kiusianum* Har. ⁷⁾ は重要な特徴は凡てアサマフウロの基準形とよく一致するが、唯葉下面は脈上だけでなく面に迄伏毛を有する點でその變種として扱ふ。豊後九重山麓、肥後阿蘇山中の濕原に産し、この地區はイヨフウロ及びタチフウロも生じて本屬分布上面白い場所である。

花の小形で徑 1-2 cm の一群は、花柱も短かく長さ概ね 1 mm 以下で分枝は長さ 1-2 mm、萼片は長さ 4-6 mm 概ね 3 脈を有し、托葉は離生し三角狀披針形で先端は針狀に尖る。この中でイチゲフウロ節 (Sect. *Sibirica* Knuth) は主根が長く午莖狀になりそれから細い根を出し、花莖は 1 花、時に 2 花を着け、**イチゲフウロ** *G. sibiricum* L. f. *glabrius* Hara⁸⁾ がこれに屬する。本州青森以北、北海道、南千島 (色丹)、樺太、シベリヤ、朝鮮、支那北中部、ヒマラヤ、コーカサスから歐洲東部に分布して居る。雜草として路傍草地に多く、北米、東歐洲に歸化して居る。歐洲で *G. sibiricum* L. の基準形として居る形は、莖・葉柄・花梗には斜めに傾下した粗毛を密生し葉裏も一面に毛多く、萼分室は短細毛を有し背稜にのみ長粗毛を散生して居る。イチゲフウロは全體毛少く、莖・花梗等は逆伏毛のみを有し葉裏は主に脈上に粗毛があり、萼片も脈上に粗毛を有し、萼分室は周圍にも粗毛を散生して居る形が多い。この形は支那、シベリヤにも産し、歐洲で *G. ruthenicum* Uechtritz と云う形に近いが完全には一致しない。イチゲフウロにも毛が多く斜に開出斜下し葉にも毛が多い形があり、これ等諸形の關係はシベリヤに於ける變化が觀察されなければ判然とししない。

ゲンノショウコ、コフウロ、ミツバフウロの 3 種はまとめてゲンノショウコ節とし、

中南米に種類の多い *Sect. Mexicana* Knuth に入れるのが妥當と思ふ。コフウロ *G. tripartitum* Knuth は葉が基部迄 3 全裂して居る點で直ぐ識別され、本州(羽前、陸前以南)、四國、九州、對島及び濟州島に分布し主に山地林下に生ずる。萼片脈上には開出長粗毛を散生するのが普通であるが、阿波劍山、駿河富士山には萼片に稍短かい伏毛のみを有する形⁹⁾がある。

ゲンノシヨウコ *G. nepalense* Sweet var. *Thunbergii* Kudo は南千島以南日本列島、朝鮮に廣く普通に産するだけに、色々の變異が見られる。莖上部・花梗・萼・蒴果等に生ずる開出腺毛の多少は個體によつて著しく變り、その極端形がウスゲゲンノシヨウコ(新稱) f. *g'abratum* Hara¹⁰⁾ で、逆向又は下屈した短い粗毛のみを有し、北海道、本州、朝鮮等處々に點在する。花色も本州中部以北では白又は僅かに淡紅を帶び紅色の 5 脈を有する形¹¹⁾であるが、花色濃く紫紅色のベニバナゲンノシヨウコ¹²⁾は本州中部の山地に點在し、本州西部、四國、九州ではこの方が普通な地方もある。稀に入重咲品¹³⁾や斑入り品も知られて居る。*G. nepalense* Sweet は印度ネパールからの種子を英國で培養したものに基いて圖説され、發育良く花は紫紅色徑 1.4 cm 許の形である。Sweet の圖及びヒマラヤ、アフガニスタン、支那中西部産で私が標本を見た範圍では、葉は缺刻鋸齒多く下面にも毛があり、莖上部の葉迄 5 裂する形が普通である。花色に就ては雲南、貴州省では白花品が多いと云はれて居る。ゲンノシヨウコでは葉の鋸齒は數少く下面は主に脈上のみ毛があり、莖上部の葉は概ね 3 裂し、花梗・萼等の腺毛が著しい。併し東京近郊にも葉裏一面に毛の多い形があり、又葉形も大差ないものがあつて、ゲンノシヨウコは *G. nepalense* と同種に屬すると云う Maxim. の考に賛成である。

ミツバフウロ(フシダカフウロ) *G. Wilfordi* Maxim. はゲンノシヨウコに似るが、葉は莖下部のものを除き 3 深裂し、裂片は卵形で鋭頭、各側 3-8 個の粗鋸齒を有し、各部とも立毛及び腺毛を缺き、種子は微細な網狀隆起があり、又莖は直立し、小苞は狹長で花梗は長く、花は淡紅紫色で少しく大きいのが普通である。北海道、本州、四國西北部の山地林下に産し、朝鮮、滿洲、支那北中部、ウスリー、アムールに分布する。未だ九州産の標本は實見せず、Maxim. が *G. Wilfordi* の原記載に引用した肥前島原の標本は明かにコフウロである。葉下面は脈上にもみ粗毛を疎生する形と葉面に迄短毛を密生する多毛形とある。ホコガタフウロ var. *hastatum* Hara¹⁴⁾ は莖上部の葉の裂片が狹長で卵狀披針形鋭頭、側片は著しく横に開出し、萼片は脈上に長い開出粗毛を有する點で基本形と異なり、下野日光地方の林下に多い。ミツバフウロの和名は嚴密に云へば松村博士が 1886 年この形に名付けられたのである。又大井次三郎博士が臺灣臺北州ピアノ軟部で採られたものは花梗や萼に立長毛がある點で異つて居る。この形は支那中部から記載された *G. chinense* Migo と同一と思はれるが、ミツバフウロの變種¹⁵⁾とする方がよい。

- 1) *Geranium eriostemon* Fischer ex DC. var. *Reinii* Maxim.
f. **Onoei** (Fr. et Sav.) Hara, comb. nov. *G. Onoei* Franch. et Sav., Enum. Pl. Jap. 2: 303 (1877), sphalmate *Onaei*. *G. eriostemon* var. *Onoei* (Fr. et Sav.) Nakai in Bot. Mag. Tokyo 26: 255 (1912).
- 2) f. **yezoense** Hara, f. nov.—Folia profundiore lobata, lobis laciniatis apice acutis, supra breviter pilosa, subtus ad vena patentim pilosa. Flores violacei.
Typus. Hokkaido: prope Sapporo (K. Miyabe, Jun 21, 1892).
- 3) var. **glabrescens** Nakai, in sched.—Caulis, petioli et folia subtus glabrescentia. Pedicelli calycesque parce glanduloso-hirsuti. Foliorum forma fere ut in var. *Reinii* f. *Onoei*.
Typus. Korea: Shajippo, Kannan (T. Nakai, no. 15565; Aug. 18, 1935).
- 4) *G. japonicum* Fr. et Sav. var. **adpressipilosum** Hara, var. nov.—Caulis, petioli, pedicellisque retrorsim adpresse strigoso-pilosi. Typus. Honshu: Karuizawa, Shinano (H. Hara, Oct. 1, 1945).
- 5) *G. yezoense* Fr. et Sav. var. *pseudo-palustre* Nakai
f. **intermedium** Hara, f. nov.—Sepala tantum breviter adpresse pilosa. Foliorum forma ut in var. *pseudo-palustre*.
Typus. Honshu: Toga in peninsula Oga, Ugo (K. Watanabe, no. 13, Aug. 2, 1938).
- 6) *G. shikokianum* Matsumura var. **Yoshiianum** (Koidz.) Hara, comb. nov. *G. Yoshiianum* Koidzumi in Matsumura, Icon. Pl. Koisik. 3-5: 93, t. 192 (1917).
- 7) *G. soboliferum* Komarov var. **kiusianum** (Koidz.) Hara, comb. nov. *G. kiusianum* Koidzumi in Bot. Mag. Tokyo 39: 7 (1925).
- 8) *G. sibiricum* L. f. **glabrius** Hara, f. nov.—A typo caulibus pedicellisque retrorsum adpresse pilosis, foliis subtus plerumque ad venas pilosis, sepalis ad nervos pilosis, capsulae valvis parce strigoso-pilosis differt.
Typus. Hokkaido: Sapporo (J. Matsumura, Aug. 1, 1899).
- 9) *G. tripartitum* Knuth f. **pilosellum** Hara, f. nov.—Sepala tantum breviter adpresse pilosa.
Typus. Shikoku: in monte Tsurugisan, Awa (J. Nikai, no. 1791, Aug. 28, 1908).
- 10) *G. nepalense* Sweet var. *Thunbergii* Kudo
f. **glabratum** (Hara) Hara, comb. nov. *G. Thunbergii* Sieb. et Zucc. var. *glabratum* Hara in Bot. Mag. Tokyo 49: 862 (1935).
- 11) f. **pallidum** (Nakai) Hara, comb. nov.

- G. Thunbergii* var. *pallidum* Nakai ex Hara, l. c. 861 (1935).
 12) f. *roseum* Hara, f. nov.—Petala violaceo-rubra 5-rubri-venosa basi alba.
 13) f. *plenum* (Iwata) Hara, comb. nov.
G. Thunbergii var. *plenum* Iwata in Bot. Mag. Tokyo 54: 73, fig. 1 (1940).
 14) *G. Wilfordi* Maxim. var. *hastatum* (Nakai) Hara, comb. nov.
G. hastatum (non Andrews 1805) Nakai in Bot. Mag. Tokyo 23: 100 & 101 (1909), quoad specim Nikkō; l. c. 26: 260 (1912).
 15) *G. Wilfordi* var. *chinense* (Migo) Hara, comb. nov.
G. chinense Migo in Journ. Shangh. Sci. Inst. sect. 3, 3: 95 (1935); in Shangh. Sizenkag, Kenkyusho Ihō 14-4: 319 (1944); non *G. sinense* R. Knuth 1912.

北川 政 夫: 東亞植物斷想錄(4)

M. KITAGAWA: Notulae Fractae ob Floram Asiae Orientalis(4)

一昨年なつかしの生れ故郷滿洲に別れを告げ日本へ歸還して初めて茲に筆をとる次第です。それについて讀者諸兄に一言お断りして置きたいと思ひます。終戦直前に長春(元新京)より通化へ疎開した爲に二十年餘の間苦心して蒐集した標本も文献も置き去りにし尙且つ記録して置いた原稿も大部分沒收されたので、辛うじて持ち歸つた原稿を頼りに論文を認めるやうなわけで、勿論原標本もなく詳細な産地、採集年月日等も充分記述することの出来ないものが多くこの點何卒御諒承願ひたいのです。私も力落さず心に鞭打ちつつ、研究を續ける決心で居ります故、諸兄の御指導御鞭撻を賜りたく伏して願ひ上げます。

54) 北滿産* *Astragalus* 屬の一新種

興安北省に横たはる滿洲有數の大湖達賴諾爾湖畔に倭小な *Astragalus* の一種が生育してゐる。莖は短縮し葉はすべて根生であり、花も無柄で簇生する。文献を探つてもこれに當る名が見當らぬので一應新種として發表する。新和名をダライゲンゲと定める。

Astragalus (subgen. *Phaca*) *dalaiensis* Kitagawa, sp. nov.

Radix perennis lignosa gracilis cylindrica ramosa apice polycephala dilute fuscescens. Caules caespitosi abbreviati hypogaei. Folia omnia radicalia depressa longiuscule petiolata 6-13-jugo-pinnata cum petiolo ad 20 cm. longa; petiolus rhachisque aptera pilis simplicibus albis villosa; stipulae inferne ad petiolum adnatae inter se liberae ovatae supra medium cuspidato-attenuatae extus margineque

* 滿洲も終戦後中華民國東北三省となつたが今は便宜上舊滿洲の儘の 18 省制によつて記述して行くことにする。